

足尾地区

◆目標とする街並み

連綿と続く鉱都の歴史を継承する街並み

◆まちづくりの心得

心得1 足尾の歴史を今に伝える産業遺産や建築物を活かしましょう

心得2 穏やかで、落ち着いたある街並みの表情をつくりましょう

心得3 足尾特有の素材感で鉱都の魅力を伝えましょう

◆まちづくりの作法

作法1 将来に伝えていくべき価値や魅力に合わせた
保全・活用を行いましょう

作法2 落ち着いたある俯瞰景をつくりましょう

作法3 鉱都ならではの特徴的な材料を街並みづくりに活用しましょう

作法4 生活者や来訪者が安心して歩ける夜間景観をつくりましょう

※全地区共通のガイドラインと併せてご活用下さい。

◆目標とする街並み ～地区の皆さんが描く街並みの将来像～

連綿と続く鉱都の歴史を 継承する街並み

足尾地区にはかつて東洋一の銅の産出量を誇り、公害対策の先駆けとなった足尾銅山があります。閉山した今もなお、その光と影両面を持つ歴史は、役割・形を変えながらもこの地に続いています。この歴史を次代に継承していくため、「鉱都 足尾」が感じられる街並みを目指しましょう。

◆足尾地区の景観資源 ～足尾地区で大切にしていきたいもの～



公害からの復興を続ける自然
(松木溪谷)



鉱都ならではの
特徴的な素材



独特の雰囲気を残す
ト口道



足尾の歴史を象徴する
産業遺産や建造物群

心得 1

足尾の歴史を今に伝える産業遺産や建築物を活かしましょう

足尾地区は、鉱都として400年もの歴史を歩んできました。

時代の変遷を経て今なお残る産業遺産や建築物は、往時の発展や生活など、歴史を伝える貴重な財産です。

建物の現在の状態を踏まえ、往時の面影を大切にしながらも、建物が持つ価値や魅力を磨き続けることで、次代に伝えていきましょう。

心得 2

穏やかで、落ち着きのある街並みの表情をつくりましょう

足尾山地に囲まれた山あいのまちとして、地形の高低差と周囲の自然景観を活かした、落ち着きのある美しい俯瞰景を目指します。

また、建物の外壁や屋根、電柱等にコールタールを塗ることで形成されていた黒を基調としたかつての街並みの表情を、地域特有の景観資源と捉え、景観づくりに活かしましょう。

心得 3

足尾特有の素材感で鉱都の魅力を伝えましょう

足尾には、鉱都ならではの特徴的な材料や、持続的な活動によって公害からの回復を続けるみどりなどがあります。

これらを地域特有の景観資源として街並み形成に積極的に活用することで、素材や活動の持つ歴史性の継承を促しながら、さらなる地域性の向上を目指しましょう。



作法 1 将来に伝えていくべき価値や魅力に合わせた
保全・活用を行いましょ

■価値や記憶の継承

今ある建物を何らかの形で未来に残していくということは、その建物が持っている建築物としての価値(貴重なデザイン・構造など)や、地域やその場所で培ってきた役割や記憶を未来に継承するということです。

足尾は、鉱都としての長く、個性的な歴史を歩んできました。その歴史を継承するためにも、建物の保全・活用は有効な手段の一つです。

■環境への配慮

近年では、地球環境への配慮から、今ある建物を長く大切に使う、あるいは使われていない建物を有効活用するといった視点が重要視されています。

足尾は、公害問題を機に、先駆的に環境活動に取り組んできました。現在も環境に配慮した様々な取り組みが行われています。建物の保全・活用も、環境に配慮した取り組みの一つと言えます。

■新しくつくること

今あるものを保全・活用することだけでなく、新しくつくることも歴史を継承する手段の一つです。古いものが“良い”、新しいものが“悪い”ということではなく、“何を将来に伝えていきたいか”を考え、それに合わせた方法を選ぶことが重要です。新しく建物などをつくる際には、足尾らしさとは何かを考えてつくりましょう。

■保全・活用の手法例

現存する建物に手を加え、現代の生活や社会の需要に合った付加価値を与えることで、新たな役割を担う存在として使い続けられると共に、地域の記憶を継承していくことができます。



▲かつて食堂として使われていた建物
(赤倉旧マルサン食堂)



▲かつての食堂の雰囲気を尊重しながら、
アートギャラリーとして活用している例
(ワタラセアートプロジェクト)

ライトアップやイベントなど、一時的な活用を図ることで、機能していた当時の記憶を呼び覚まし、再び、建物の価値や地域における重要性を認識する機会をつくります。また、今後の保存・活用に向けた活動のきっかけにもなります。

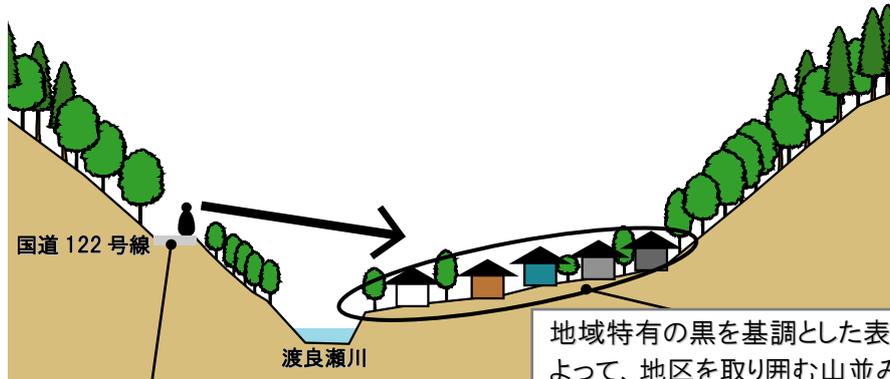


▲産業遺産をライトアップしたイメージ
(古河掛水倶楽部)



作法 2 落ち着いたある俯瞰景をつくりましょう

■足尾地区の地形と俯瞰景



地区内外の高低差から生まれる俯瞰景を意識した街並み形成を行いましょう。

地域特有の黒を基調とした表情づくりによって、地区を取り囲む山並みの緑とのコントラストが美しい、穏やかで落ち着いたある街並みを目指しましょう。

■屋根の色と街並み

【現況】



▲彩度の高い色の屋根の街並み

【修景イメージ】



▲彩度の低い色の屋根の街並み



作法3

鉾都ならではの特徴的な材料を 街並みづくりに活用しましょう

■鉾都ならではの材料の活用イメージ例① <銅>

銅を「鉾都 足尾」の象徴的な材料として捉え、街並みを形成する要素(オブジェやストリートファニチャー、看板等)に積極的に活用することで、地区の個性が強調され、魅力向上につながります。

【活用例】



▲かつて東洋一の産出量を誇った足尾の銅



▲看板・表札



▲オブジェ

■鉾都ならではの材料の活用イメージ例② <カラミ煉瓦>

カラミ煉瓦は銅の副産物であり、足尾のならではの素材のひとつです。この素材感を塀や舗装、建材やストリートファニチャー等に活用することで、魅力的、個性的な街並み形成につながります。

【活用例】



▲銅を精錬する過程で生じたカラミを固めた煉瓦
(地区に現存する防火壁)



▲カラミ煉瓦の素材感を活かした案内板

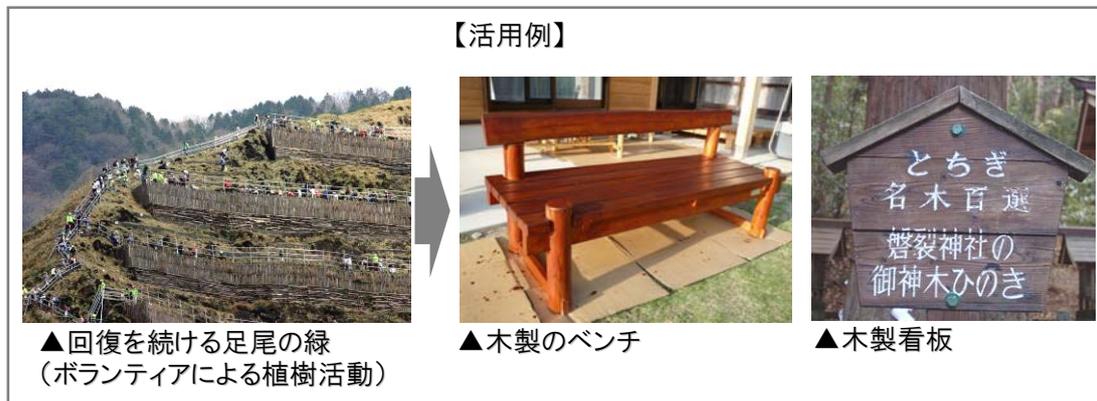


▲カラミ煉瓦の素材感を活かした敷石

■ 鉾都ならではの材料の活用イメージ例③ <木材>

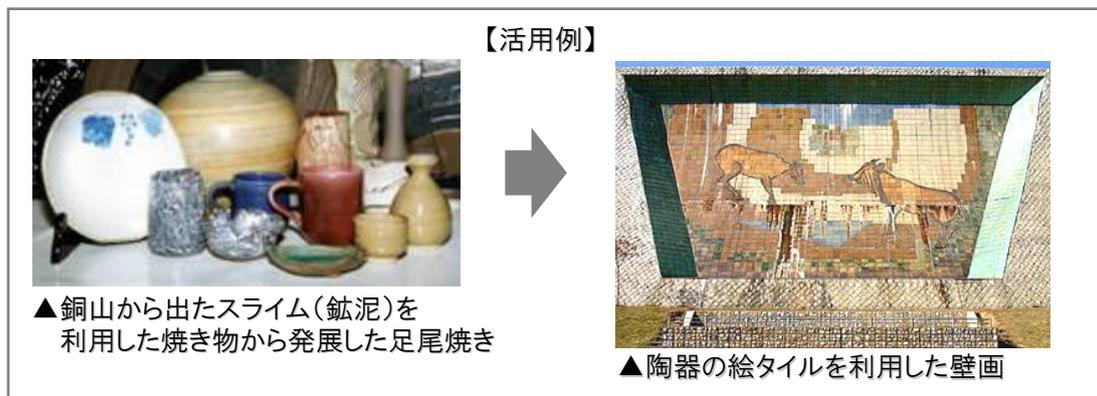
足尾は、公害発生を機に、先駆的に環境活動に取り組んでいます。現在も行われている植生復元のための植樹活動は、地区内外の多くの人の努力によって支えられています。

街並みの中に木材をうまく活用していくことで、地区の個性として新たな魅力が生まれると共に、環境への取り組みや自然を大切にしたい想いをより身近に感じられ、活動への参加意欲や関心を高めることにつながります。



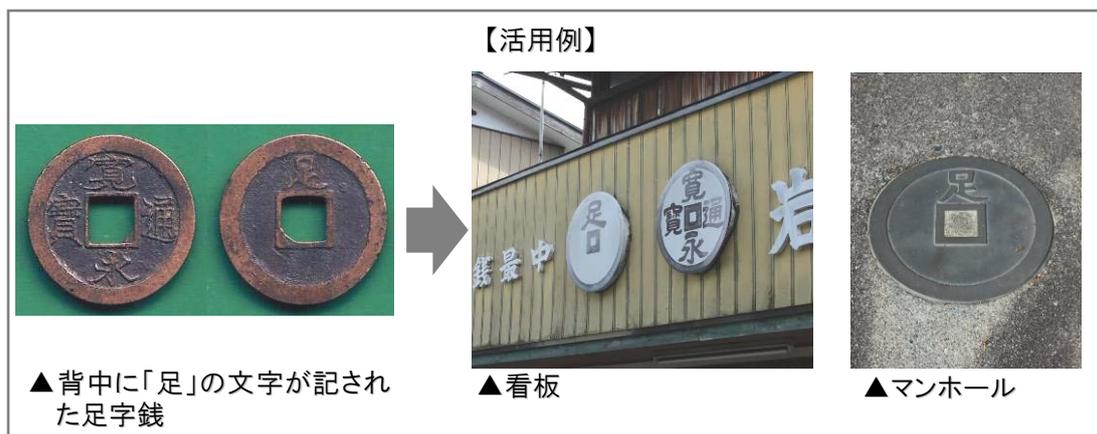
■ 鉾都ならではの材料の活用イメージ例④ <足尾焼き>

地区の新しい地場産業として近年注目されている足尾焼きを街並み形成に活用することで、鉾都の個性を新しい形で表現され、魅力の創出と歴史の継承につながります。



■ 鉾都ならではの材料の活用イメージ例⑤ <足字銭>

足尾で鑄造された寛永通宝である足尾銭(通称:足字銭)を看板やストリートファニチャー等のモチーフに活用することで、足尾独自の文化の継承と魅力の向上につながります。





作法4 生活者や来訪者が安心して歩ける夜間景観をつくりましょう

■照明と夜間の街並み



▲夜景のイメージ

温かみのある光源を用いることで、光を受け照らされる面の魅力を引き立てつつ、穏やかな印象を与える街並みをつくることができます。

地区内の主要な道路については、街路灯を連続的に配置し路面を照らす光の均一性を高めることで、夜間の視線誘導性や歩行者の安全性が高まります。

さらに、地域資源を活かしたデザインの照明とすることで、地域の個性と魅力ある夜間景観の創出につながります。